

歴史のある企業の見学記

— 日立造船、銭屋アルミニウム製作所 —

ATAC では毎年優れた技術や製品を持つ企業を訪問する一泊研修旅行を行い、メンバーの見聞を広めて日常のコンサルティングに役立てています。昨年（2015年）12月10～11日には舞鶴市、池田市の歴史のある2つの企業を訪問しました。

◆日立造船株式会社 舞鶴工場



舞鶴工場は、1903年の海軍工廠の開設後、1971年に日立造船(株)の工場となりました。現在では、電子制御事業や発電事業等、時代の先端を行く事業を中心に展開しています。

また同敷地内には海軍工廠時代の赤レンガの建物等の多数の‘近代化遺産’が残っています。この中には東郷平八郎が執務した建物が現存しているなど、伝統と歴史の重みを感じる工場でした。



今回はこの中の制御盤と電子ボードの製

造工程を見学させて頂きました。顧客の要望に個別に合わせて手作りで製造される制御盤には、懐かしさを覚えながらもデンマークのMANの認証を取得されているなど、時代の先端を行くものづくりに感心し、世界的にも突出した日本の「ものづくり現場」の原点を垣間見ることが出来ました。

◆株式会社銭屋アルミニウム製作所 本社及び池田工場



昭和8年に創業され、アルミプレス技術から開始した銭屋アルミニウム製作所は、金属加工大量生産部門が主力となっており、池田市で基礎技術を完成させた後、中国の子会社で大量生産を行っておられます。

優れた加工技術をベースに、アルミニウムからチタン、ステンレスと素材の幅を広げ、これらの素材の繊細な特徴を最大限に生かしつつ種々の用途に発展していました。特にデジタルカメラ、ノートパソコン、携帯電話の筐体などを製造しており、設計から製品化までを一貫して行う会社として高く評価されております。

今回は筐体を中心にした各種サンプルを見学し、市場からの極めて難易度の高い要求に応え続けておられる高度な加工技術に触れることができました。

日々革新する加工技術をベースに世界の中で躍進されている姿を見学し、これこそ日本の強みだと実感させられました。

(池田(雅)・佐々木)